CONTENTS

広報ななお

2010 No.75

12

● 目 次

2 ひと人ヒト（小野竹松さん）
3 秋の叙勲・褒章、危険業務従事者叙勲受章者紹介
4 特集　平成２１年度決算のあらまし
7 市職員給与などのあらまし
8 情報ランド（お知らせ）
13 ケーブルテレビななお お友達紹介キャンペーン
14 みんなの本棚／児童館へ行こう
15 イベント情報
16 広がれ！市民のわ／市長コラム／市長談話室
18 市民相談
19 休日医療情報／不用品活用銀行
20 まちの顔
22 クリスマスイベント（能登島ガラス美術館）／わが家のアイドル

今月の表紙

皆さんは、サケが川に遡上する光景を見たことがありますか？七尾市内の川にサケが遡上することを知っている人も知らない人もいるだろうが、知らない人が多いのでは？！

富山県境付近にある熊淵川には、サケが遡上して来る。今年は梅雨の影響で、河口の大部分が土砂でふさがり、遡上できるか心配されたが、今年もサケがふるさとに帰って来た。河口から産卵場所までおよそ 500 m。浅瀬を遡上し石に体を打ち付けるように産卵するため、産卵場所では傷ついた姿に。数日かけて産卵し、力尽き、野鳥の餌に。この一連の光景が熊淵川の自然美であり、切なさでもある。

熊淵川で生まれ、熊淵川で生涯を終える。生命の在り方を感じた。遡上したサケの捕獲は禁止です。熊淵川の自然美を温かく見守りましょう。

ひと人ヒト

蓬莱を書いて42年。その数なんと64万枚。

小野（おの）竹松（たけまつ）さん　83歳（郡町）

「命は『筆』、生活は『焼き鳥』、楽しみは『歌』」。そう話すのは、市内で焼き鳥店を経営する小野竹松さん。昭和43年から、一年の幸福を願って神棚に飾る正月の縁起物「蓬莱」を毎年書き続けている。

昭和32年に結婚し、屋台車をひいて焼き鳥屋をはじめた。昭和43年に念願の家を建てたことをきっかけに、長年七尾で商売をさせてもらった恩返しに何か社会の役に立てることはないかと奥さんに相談。もともとは絵を描くことが得意だった小野さんだが、絵よりも書の方が社会の役に立てるのではないかという奥さんの助言から、独学で書を学び、「蓬莱」を書き始めた。

当初は3千枚だった枚数も評判とともに増え続け、10年ほど前からは毎年2万枚を書き上げる。毎年9月30日から、毎日280枚ずつを書き続け、12月11日におはらいを受けた後、市内外の公共施設や金融機関などに贈られ、希望者に配布される。毎年楽しみにしているたくさんの知人などにも配られる予定だ。

市内を散歩していると知らない人から『蓬莱ありがとう』と声をかけられたり、新聞記事を見て滋賀県からわざわざ会いに来てくれた人がいたりと「喜んでもらえる人の声を聞けることが一番うれしい」と話す。また、歌うことも生きがいの一つで、カラオケのレパートリーは50曲以上。大会で優勝したこともあるというほどの腕前だ。

「今まで真っすぐ生きてきて、少しは社会のためになれたかな。年はとったが、これからも一年一年がんばりたい」と力強い言葉で話す。

問　小野さん　☎52―3736

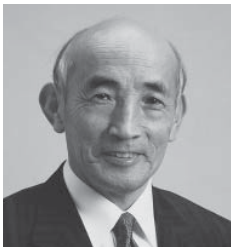
秋の叙勲

叙勲・褒章

長年にわたり
それぞれの分野で
尽力された方々が、
栄誉に輝かれました。

●旭日小綬章●

仙田（せんだ）　忍（しのぶ）さん
（78歳）　熊淵町



元七尾市議会議長

昭和45年の熊淵川大災害で変わり果てた故郷を復旧するために昭和46年議員に。その後10回連続当選や議長の責務も果たし、38年間を全うする。「七尾火電反対闘争や議長として各種大役を果たしたことを思い出す。今後も感謝を忘れず、市民のために、を信条に微力ながら貢献したい」と今後も奉仕する毎日を送ることを誓う。

●瑞宝双光章●

登美（とみ）　貞男（さだお）さん
（77歳）　国分町

元公立中学校長

昭和30年から38年間教育一筋。朝日中学校では、ソフトボール部顧問として生徒を全国大会へと導いた。御祓中学校校長、県七尾地方教育事務所所長を歴任。退職後は6年間七尾市教育研究所でいじめや不登校の相談指導にあたった。「これまで多くの人や生徒たちとの出会いに恵まれ、深く感謝している。自分は本当に幸せな人間」と頬をゆるめる。

●旭日単光章●

川端（かわばた）　正夫（まさお）さん
（74歳）　矢田新町

水産物流通業振興

25歳のころに今の店を立ち上げこれまで49年。「曲がったことは嫌い」と男気ある川端さん。その人柄から、七尾市、石川県の要職を歴任。石川県で開催された全国水産物商業協同組合連合会全国大会で実行副委員長を務め、全国の組合員から賞賛されたことが一番の思い出。今後も皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、店の顔として、新鮮な魚を届ける。

●瑞宝単光章●

村瀬（むらせ）　義男（よしお）さん
（74歳）　能登島野崎町

元七尾鹿島広域圏事務組合
第1消防団副団長

農業と土建業の傍ら、33年間消防団員として地域の安全安心を確保するために尽力。平成8年10月から約2年間、第1消防団副団長を務めた。島ゆえに海難事故も多かったが、家族からの感謝の言葉を励みに全力で職務にあたった。「先輩や周りのみんなに心から感謝している」と話し、今でも地元消防団の訓練などには足を運ぶ。

秋の褒章

●藍綬褒章●

小坂（こさか）　康男（やすお）さん
（59歳）　中島町河内

七尾鹿島広域圏事務組合
第3消防団団長

昭和49年から消防団員として地域住民の生命と財産を守るために尽力。先輩たちの勇ましさにあこがれ入団し、数々の現場で厳しさも経験した。22年4月から第3消防団団長に。「責任の重さとともに、消防団の果たす役割の大きさも実感している。後継者育成など、まだまだやるべきことばかり」と、地域の安全安心への熱意は強い。

危険業務従事者叙勲

●瑞宝双光章●

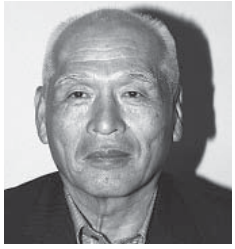
山本（やまもと）　剛（つよし）さん
（69歳）　大田町

元七尾鹿島広域圏事務組合
消防司令長

学生時代の夢は、人の命や財産を守る仕事に勤務することで、念願叶い消防士に。41年間、消防司令長までを全うする。「広域圏発足当初、鹿南第2分遣所に勤務し、専属消防士がいなかったため消防士の育成や組織づくりが大変だった」と振り返る。「今後は、皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、地域貢献したい」と意欲を見せる。

●瑞宝双光章●

松本（まつもと）　正樹（まさき）さん
（65歳）　新保町



元海上保安官

海難救助や海上事件の取り締まり業務に、海上保安官として42年間勤務。能登半島周辺の好漁場を巡る漁業紛争、ロシアタンカー沈没による原油流出、密航・密輸の防止など、海上での思い出は尽きない。「今思えば、長いようで短かった。常に危険と背中合わせの仕事だったが、仲間と歩み支えられた」と振り返る。